

音源の比較試聴(30)
—ショパンの 24 の前奏曲—

1. 始めに

前報(29)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じマスター音源のアナログ盤と STAGE+からの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

ドイツグラモフォン 2530 550

フレデリック・ショパン 24 の前奏曲

マウリチオ・ポリーニ (ピアノ)

配信は STAGE+から上記と同一の曲を選択します。

フレデリック・ショパン 24 の前奏曲

マウリチオ・ポリーニ (ピアノ)

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase

STAGE+

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase

3. 音源の比較試聴結果

アナログのドイツグラモフォン盤は、妥当と思われるイコライザーカーブ、位相、第 4 時定数で聴いていきます。

本アナログ盤は、1976 年の収録で、若いポリーニの勢いのある演奏できらきらと輝くようなショパンです。

STAGE+の配信は、元がアナログマスターのためか、デジタル臭さが感じられず、上記アナログ盤の印象に近似しており、若干鮮度感が及ばない程度です。

4. まとめ

アナログ再生、STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなっており、アナログ盤は、きらきらと輝くようなショパンであり、STAGE+の配信は、アナログ盤の印象に近似していますが、若干鮮度感が及ばない程度です。

以上